

平成22年12月28日

記者発表

発表先 石川県政記者クラブ

扱い 発表を持って解禁



国土交通省 北陸地方整備局

金沢河川国道事務所



つばた「津幡バイパス」全線4車線完成から1年経過

4車線化の効果あり 渋滞解消！事故半減！

国道159号津幡バイパスは、平成21年11月21日に全線4車線が完成し、約1年が経ちました。この度、現在の交通状況等を調査して、確認された整備効果についてお知らせします。

【概要】

全線4車線が完成したことにより、2車線の時と比べて、
交通渋滞が全て解消され、車の流れがスムーズになりました。
交通事故が約半分となり、安全性が向上しました。

交通渋滞の解消

能瀬地先付近を先頭に上下線共に発生していた交通渋滞が全て解消しました。
交通渋滞により生じていた損失額が、年間で約4千万円減少しました。

交通事故の減少

内日角から舟橋JCTの間で発生していた交通事故の件数が約半分に減少しました。

詳細なデータは次ページ以降を参照願います。



石川の道を安全、快適にするための



北陸の道路整備
『選択と集中』

【お問い合わせ先】

国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所
調査第二課 吉田 英治
電話:076-264-9912(直通)

交通渋滞の解消

2車線の時に発生していた交通渋滞が、4車線開通直後から全て解消しました！

能瀬地先付近の渋滞長の変化(休日日中)

< 金沢方面から七尾方面 >

2車線の時: 約 900m 4車線化1年後(今回): 0m

< 七尾方面から金沢方面 >

2車線の時: 約1,850m 4車線化1年後(今回): 0m

これらの渋滞解消により、狩鹿野から庄間の移動時間が最大で約3分短縮されました。

狩鹿野跨道橋 庄跨道橋(休日17時台)

2車線の時の移動時間: 約7分 4車線化1年後(今回): 約4分

渋滞による損失額(1)が、約4千万円減少！

狩鹿野付近～庄付近

2車線の時の損失額: 約4千2百万円 4車線化1年後(今回): 約3百万円

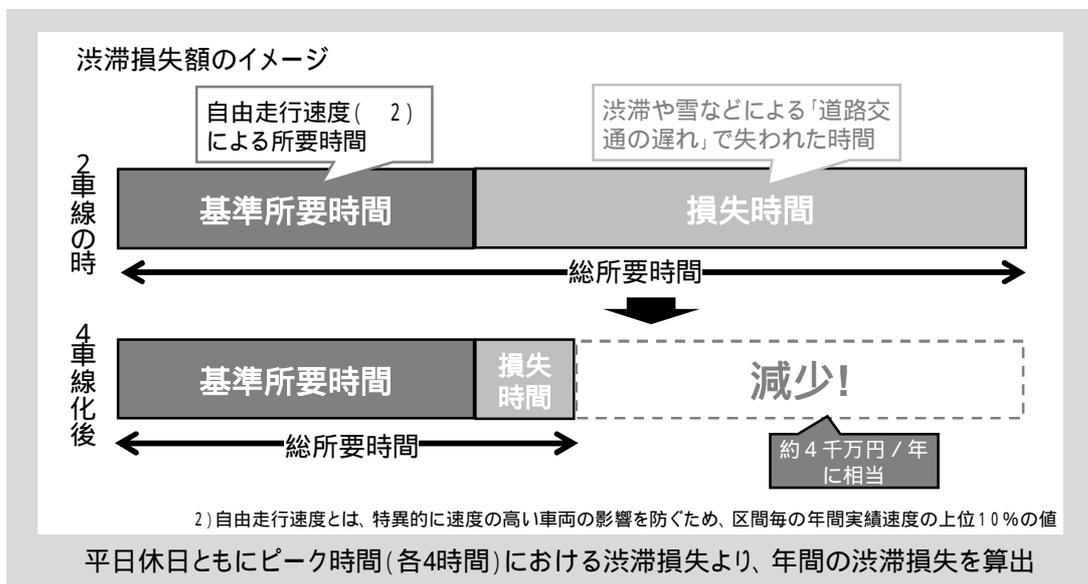
1) 渋滞による損失額とは

渋滞等による走行速度の低下によって生ずる、時間の損失や、経費の損失を金銭に換算した額です。

平日と休日のピーク時間帯(平日朝7:00～9:00と夕17:00～19:00、休日日中14:00～18:00)を対象に試算した結果です。



津幡バイパス4車線化前の渋滞状況



津幡バイパスにおける渋滞損失の変化と渋滞損失のイメージ

交通事故の減少

2車線の時に発生していた交通事故(死傷事故)がほぼ半減!(3)

内日角～舟橋JCT間の事故件数の変化

2車線の時(4):11件/年 4車線化後(今回 5):6件/年

既に4車線となっていた区間(中須賀～舟橋JCT間)においても、七尾方面への追突事故が大幅に減少!

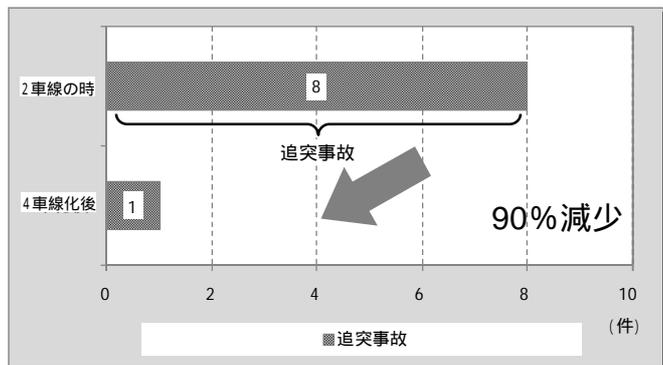
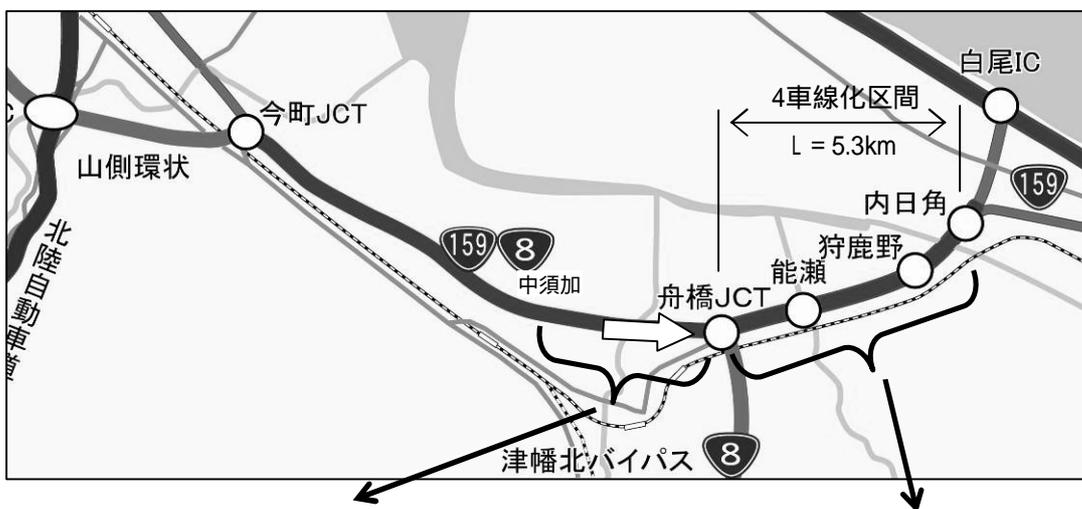
舟橋JCT付近の追突事故件数の変化

2車線の時(4):8件/年 4車線化後(今回 5):1件

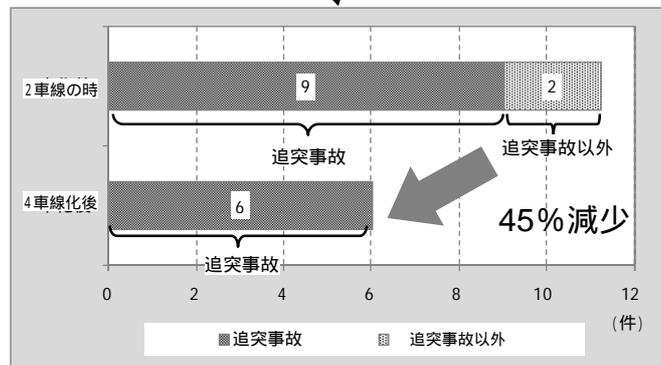
3) 事故件数は、速報値による集計結果です

4) 2車線の時: H17.11～H21.10(4年間)の事故発生件数の年平均

5) 4車線化後: H21.11～H22.10(1年間)の事故発生件数



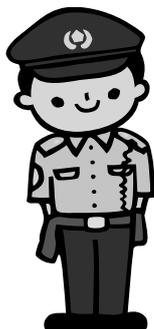
舟橋JCT～中須賀間の事故(七尾方面追突事故)件数



内日角～舟橋JCT間の事故(死傷事故)件数

津幡バイパス4車線化前後の交通事故件数の比較

津幡警察署担当者のコメント



2車線時には、舟橋JCTで車線減少となり、七尾方面への車両の渋滞が発生していましたが、全線4車線化により、交通渋滞解消と追突事故の大幅減少につながったものと考えられます。